

# Istanbul Weekly vol.2-no.6

## イスタンブールウィークリー

発行：在イスタンブール日本国総領事館 発行日：2013年2月15日（金）

### — 今週のポイント —

1. 政治：EU加盟に向けて、EU法第22章が交渉再開へ。  
【参考論調】アサド大統領が生き残っている理由。
2. 軍事：エルドアン首相、入院中のバルヨズ事件被疑者を見舞う。  
シリア向けの大量の小火器を押収。
3. 経済：トルコの2012年輸入額の発表。  
トルコ航空、国内線機内の酒類サービス廃止。
4. 治安：新市街ペイオール市において、駐車中の車両が火炎瓶攻撃を受ける。  
シリア国境の検問所において車両爆発。
5. 社会：行方不明の外国人数は89名。  
ノスタルジックなトラム、99歳を迎える。

#### 1. 政治

##### ●【イムラル・プロセス関連】

(1) 法務大臣、イムラル・プロセスに言及  
エルギン法務大臣は、(i)イムラル島に服役中のオジャランとの面会者については今週中に明らかになる、現在はオジャランの弟が面会申請中であり実施される予定、(ii)新憲法草案の「司法」部分に関しては、明日12日にエルドアン首相と協議する予定と述べた。(2月11日付HT紙16面)

(2) クシャナック BDP 共同党首は、アンタルヤの BDP 組織を訪問した際に、(i)BDP の進む道は複雑なものではなく、民主主義的な共和国、自治権のあるクルディスタンに真っ直ぐに繋がった道である、(ii)21世紀においては、エルドアン首相一人の発言で国を動かす世の中ではないと発言。(2月11日付H紙24面)

(3) BDP、面会者氏名を法務省に提出へ  
12日、BDPは中央運営委員会を開催し、オジャランの口から直に「PKKの停戦発表」にかかる要請を聞きに行くための面会者として、アフメット・トゥルク議員、ペルヴィン・ブルダン BDP 会派代表、デミルタシュ BDP 共同党首の3名の氏名を法務省に本日提出予定。(2月13日付H紙31面)

(4) 【参考論調】テロ資金供与とクルド問題  
6日、国会は、テロリストに対する資金供与に関する新法案の審議を開始したが、国会審議に至るまで、国際社会の圧力の下で2年もかかった。エルドアン首相がこれまで乗り気ではなかったのは、トルコの慢性的なクルド問題が原因であった。PKKが影響力を有するトルコ東部・南東部では、投資家がPKKによる何らかの保護料や献金を支払うことなしに事業を行うことは事実上不可能であり、これはトルコ西部のイスタンブール、イズミル、アンタルヤといった大都市におけるクルド人投資家にも当てはまる。新法案が通過すれば、違法な支払いを行っている投資家の資産が

凍結・押収されるため、彼らは法案通過を恐れている。従って、国会内のBDP議員のみならず、AKP内のクルド系議員も新法案に反対。またアナトリア地方の中小企業も、税金の支払いや透明性の確保面に不満を抱いている。(2月7日付HDN紙3面、Murat Yetkin氏)

(5) 【参考論調】イムラル・プロセスと新憲法  
(i)イドリス・バルケン BDP 会派代表は、「新憲法のためにAKPと組むことは可能、トルコ国民の定義、母語による教育、異なる思想や信仰に対する自由の容認といった要求を認めるのであれば、新憲法賛成について党内で議論し、支持する用意はある」とした。

(ii) (新憲法案を可決するためには) AKPの国会議席数では足りないため、国会の少なくとも一政党からの支持が必要だが、AKPとCHPの合意は不可能なので、MHPとBDPが残る。AKP幹部は一時、「新憲法」に関してMHPと合意が可能かと模索したこともあったが、そうならば(民族主義的なMHPに配慮して)クルド問題に蓋をして、民主主義的な転回が否定され、内部対立が激化しかねないトルコが生まれるところであった。

(iii)イムラル・プロセスの再開には、AKPが大統領制を含む新憲法に関してどの政党と組むかという点を変える可能性がある。BDPと組めば、トルコのあらゆる制度を深く造り替えることが可能となる選択肢であって、トルコの単一民族という権威主義的な構造が変化して「多文化・多民族国家」像も誕生しうる。(2月9日付T紙11面、Oral Galıslar氏)

(6) 【参考論調】エルドアン首相主導のPKK和平プロセス  
11日、エルドアン首相はEU諸国の大使を招待して主催した夕食会において、EUのトルコに対する「二重基準」を厳しく批判したが、同時に政権がトルコのEU加盟方針を改めて表明したのは前向きに評価できる。夕食会出席者の一人は、エルドアン首相は自らがまとめる新憲法草案が国民投票で多くの支持を得ると確信しているようだ、BDP票を

合わせると有権者総数の 60%以上となるため、同首相は BDP と組可能性を排除はしていないように見える、と述べた。(2月13日付 HDN 紙 Serkan Demirtaş 氏)

#### ●ギョル大統領、三国協力呼びかけ

ギョル大統領は第 12 回イスラム協力機構会合にて、(i) シリア現政権による権力放棄を呼び掛けると同時に、(ii) アラブのイスラム世界の民主主義への道は容易ではなく、イスラム世界として最大限の協力と連帯を示す義務があるとした。また、ギョル大統領とムルシー・エジプト大統領はシリア問題に共同で取り組むことを表明し、これに対しアフメディネジャド・イラン大統領は、シリアを巡ってイラン、エジプト、トルコの 3 カ国のこれまでの考え方に相違があったものが、むしろ接近し始めたと言及したが、その具体的内容には言及せず。(2月8日付 H 紙 7 面)

#### ●トルコの EU 加盟関連

(1) フランス、トルコ外相をパリに招待  
オランダ仏政権はトルコとの関係改善を図っており、2月12日にパリで開催予定のリビア国際支援会合にダヴトオール・トルコ外相を招待し、両国外相会談も開催予定。トルコ・EU 加盟交渉において、フランスが止めていた 2 つの章の交渉の再開が期待されている。(2月8日付 H 紙 16 面)

(2) トルコは EU 加盟から遠ざかってはいない  
エルドアン首相は、EU 加盟に向けて交渉過程を加速させる時期に来ている、EU 加盟目標から遠ざかってはいない、上海協力機構と ASEAN への加盟というのは EU の代替案ではなく、戦略的関係強化のための要素として考えていると述べた。(2月12日付 HT 紙 16 面)

(3) EU はトルコを失う懸念あり  
Joost Lagendijk・EU・トルコ共同議員委員会元委員長は、EU がこれまでの交渉過程において査証を巡りトルコに不適切な対応をとってきたと強調し、EU はトルコを失うのではないかと懸念を表明しつつ、今後は EU とトルコが一堂に会してトルコ加盟に向けた工程表を作成する必要があると発言。(2月12日付 T 紙 11 面)

(4) ギョル大統領、EU 加盟は国民投票に  
エジプトのアル・ヴァタン紙のインタビューに応じたギョル大統領は、「トルコが EU 基準に到達して加盟承認がなされた後に、トルコによる EU 加盟に関する国民投票にかける」と述べた。(2月13日付 T 紙 11 面)

(5) EU 加盟に向けて第 22 章が交渉再開へ  
12日、ダヴトオール・トルコ外相は、仏外務省主催のリビア国際支援会合出席前にファビアン仏外相と会談。同仏外相の発表によると、これまで仏政府により留保されていた EU 法第 22 章（地域的政策と建設的手段の調整）の交渉開始をダヴトオール外相と確認したとした。トルコの EU 加盟交渉は 2005 年 10 月 3 日に開始以降、7 年間で合計 33 章の内 13 章分は作業を開始しているが、残り 20 章の内 17 章分が留保されていた。(2月13日付 H 紙 32 面)

#### ●駐トルコ米国大使、トルコ外務省訪問

7日、リチャード・ネ駐トルコ米国大使は、スィニルオール・トルコ外務省次官と面会。同大使は、先週発生したアンカラ米国大使館自爆テロ事件に関するトルコ政府と警察の協力に感謝の意を表明、同時に、トルコの司法を批判したことに対する警告も受けた。同大使はトルコ司法批判を踏まえて外務省に召喚されたと見る向きもあったが、面会の申し込みは以前から行われていたものだという。(2月8日付 H 紙 25 面)

#### ●エルドアン首相、カイセリ訪問

10日、エルドアン首相は、カイセリ市により建設されたエルジエス冬季スポーツ施設（1億2300万リラ＝約7000万ドル相当）と 41 施設の合同開所式に出席。同首相は、カイセリを「トルコの輝く星」とし、建築家ミマール・シナンやギョル大統領を生み出した土地である、またトルコ共和国建国 100 周年（2023 年）の目標に向かっていくが、それとは別に、孫の世代のために 2071 年も目標であるとした。

【注】同年の 1000 年前にあたる西暦 1071 年、東ローマ帝国ビザンツ軍とセルジューク朝の間でマラズギルトの戦い（東部のヴァン湖近く）が行われ、セルジューク朝が勝利し、この戦いを契機にアナトリア地域を支配することになった。(2月11日付 HT 紙 16 面)

#### ●トルコ・イスラエル関係

トルコ協力調整庁 (TIKA) がガザ地区の病院建設予定のために必要な建築資材・技術機材の持ち込み申請を行っていたが、イスラエル政府はこれを許可した。同政府は、これにより、関係が悪化していたトルコ政府に対する柔軟な姿勢を示したことになる。(2月11日付 H 紙 24 面、セルカン・デミルタシュ氏)

#### ●新憲法草案作業関連

(1) 新憲法草案作業は 2011 年 9 月に開始以降 15 ヶ月で、これまで 103 条が検討され、その内 31 条は合意されている。他方、各政党間で合意に至っていない条項については憲法和解委員会において改めて検討されるが、使用されている用語の選択問題にも遭遇して解決されていない。草案文章中、合意に至っていない単語の例は次の通り。

「自由」(hürriyet—özgürlük)、生活 (yaşam—hayat)、尊厳 (onur—şeref)、条件 (şart—koşul)、身体 (insan bedeni—vücut bütünlüğü)、器官 (organları—doku) 等。

(2月12日付 HT 紙 16 面)

【注】トルコ語では、一つの意味を表すために二つの単語が存在する場合がある。1932 年に設立されたトルコ言語協会 (TDK) はアタチュルクの指示により、語彙の刷新、廃用となっていた固有語などを用いて外来語に代わる数百の単語を新設したが、アラビア語やペルシャ語起源の用語が依然として混在しているのが現状。

#### (2) 新憲法草案第 4 案司法部分の変更

12日、エルドアン首相は、首相府において、新憲法草案の第 4 案司法部分に関する会議を主宰。同会議は 3 時間半に及び、テロ法案が主要な議題となった。同案では、トルコ刑法とテロ対策法に関して、テロ・プロパガンダとテロ組織に対する支援・犯人秘匿を定める条項が変更される。犯罪とみなされるためには、「暴力、犯行のために明らかな教唆」といった二つの基準が定められることになる。また、テロ組織の目的を説明・発表することは、暴力を伴わない限り犯罪ではなくなる。この変更により、KCK 逮捕者の多くは釈放されることになる。(2月13日付 H 紙 31 面)

#### ●スカーフ着用に関しては、トルコはフランスと同様の規定

トルコ政府は、公の場におけるスカーフ着用に関する自由を認める方向で取り組みを開始し、EU 省は EU 諸国においてスカーフ着用例を検討した報告書を作成した。同報告書では、EU 加盟諸国 27 カ国の内、フランスのみがスカーフ着用禁止法を適用しており、トルコと同様の例示となった。フランスでは世俗主義原理に基づき、公務員が宗教的象徴を用いるのを禁止している。(2月13日付 HT 紙 18 面)

### ●エルドアン首相、欧州各国による PKK 資金調達取り締まりを巡り、EU を批判

12日、エルドアン首相は、先般の在アンカラ米国大使館自爆テロ攻撃事件の犯人は2001年に(病気のためトルコ刑務所から)釈放された後(居所不明となり)、EU諸国内で自由に動き回った後にEU諸国からトルコに入り事件を起こしたとして、「(EU諸国は)この組織をテロ組織だと公表するだけで制裁を与えていない。PKKによる資金調達を、一体全体、どれだけ許容するつもりか」と述べた。(2月13日付H紙28面)

### ●レスリング、オリンピック競技から除外か

オリンピック国際委員会(IOC)が2020年オリンピック競技からレスリングを除外する方針を発表したことを受けて、アフメット・アユク国際レスリング連盟(FILA)は、誰もレスリングをオリンピック競技から除外することは出来ない、IOCの決定は最終的なものではないとした。(2月15日付Y紙インターネット版)

### ●日本映画、!f映画祭で上映

今週末に!f Istanbul映画祭に出かけるなら、園子温氏監督の最も輝いている日本映画『希望の国』を観てみよう。同作品は東日本大震災後の日本を取り上げたもの。同監督は1985年以来、映画制作を開始し、2001年に『自殺サークル』で国際的脚光を浴びた。『希望の国』は2月16日(ペイオールのCinemaximum Fitas)、2月17日(イスティニエのCinemaximum Istinye Park)、2月23日(ジャッデポスタン(アジア側)のCinemaximum Budak)で上映予定。(2月13日付TZ紙13面)

### 【シリア情勢関連】

(1)トルコへのシリア人避難民数:17万7387名(2月8日現在)(トルコ首相府緊急災害対応総局AFADのHP)

(2)【参考論調】アサド大統領が生き残っている理由

多くの人々は、約2年過ぎた今もアサド大統領体制がまだ崩壊しないことに驚いている。アサド大統領が生き残っている主要な理由として、次の点が上げられる。(i)リビア、チュニジア、エジプトの場合と違ってシリア軍が強く、シリアでは外国勢の介入や軍隊の裏返りが無い、(ii)シリアの反体制派は、アサド体制を嫌う一般人からなっており反対派の経験が無い、(iii)シリア反体制派は全ての反体制派グループをまとめるのに失敗している、更に、(vi)アサド体制の崩壊を望む人々は、シリアに関する知識が少ない。例えば、多くの人々は何となくアレppoが枢要と見なしているが、アサド大統領は生き残り作戦上、シリア北部・西北部を掌握できるハブ都市たるホムスに関心を示しているし、各都市や都市内の区などはその重要性に応じて優先順位付けされている。つまり、アサド大統領は軍事戦略を相当分かっていて、どこを失ってどこを失ったらいけないかを知っているということだ。

なお、トルコにおいてアサド大統領について冷静な論評を書くと手厳しく批判されるのが普通だ。それ故、誤解なきよう強調しておくが、以上はあくまでもアサド大統領が生き延びてきている理由の一端を説明するものであって、彼の立場や政策を支持するものではないことを改めて断っておきたい。(2月11日付TZ紙4面、Gökhan Bacık氏)

(3)ジョージ・サブラ・シリア国民評議会(SNC)議長は、11日にトルコ-シリア国境で発生し14人が死亡した車両爆弾テロ事件は、トルコにいる武装組織との面会のために向かっていたシリア国民評議会(SNC)一行を狙っていた

ものだった、我々はちょうどその場所にいるはずだったが、30分遅れていたと述べた。閣僚と軍幹部は事件現場検証のため現場を訪問。ギュレル内務大臣は同事件の責任はシリア側にあるとした。

シリアの国家和解大臣は、反体制派リーダーのハティーブ氏の対話呼びかけに対し、自分は国内対話準備を議論するために同氏と会う用意があると述べた。(2月13日付HDN紙1面)

## 2. 軍事

### ●バルヨズ(スレッジハンマー:大金槌)事件関連

(1)2010年のT紙報道により軍が政府転覆計画を企図したとされるバルヨズ事件に関して、拘束中のエルギン・サイグン退役将軍は、健康上の理由で刑が執行不可能な場合に適用される新規則に基づき、刑の執行が一時停止。(2月8日付HD紙6面)

(2)9日、エルドアン首相は、退役将軍エルギン・サイグンの心臓手術後、入院先の病院を訪問。(2月11日付HD紙4面)

(3)11日、バルヨズ事件で拘束中の退役将軍等7名の弁護士が、拘束状態ではなく、在宅により裁判を継続するよう、第2審が行われる予定の高等裁判所に請願。(2月12日付C紙6面)

(4)拘束中のタイラン・チャクア海軍大佐が、英国の作家ウィルバー・スミス氏宛の書簡を発出。同海軍大使は、同氏著作の歴史小説の中でオスマン帝国に関連した箇所が史実と違う旨を指摘しつつ、あわせて、バルヨズ事件の概要と自分が拘束されている事実を書き添えた。これに対して、スミス氏からは、間違いの指摘に感謝するとともに、「バルヨズ事件の事実を知ってショックを受けた。恐ろしく不当な措置である。」との返信が大佐宛に接到。(2月12日付H紙1面)

(5)エルドアン首相は、入院中のエルギン・サイグン退役将軍を訪問した理由について、「人道上必要なことだ。彼はともに仕事をした友人であり、2007年11月5日、米国ホワイトハウスにて当時のジョージ・ブッシュ米大統領と面会したチームの一員であった」と述べた。野党MHP党首は、同首相の見舞いを、「バルヨズ事件では、不明確な罪状によって多数の軍幹部が拘束されているが、エルドアン首相がこのことを心苦しく思っている証拠だ」と発言。(2月14日付HD紙1面)

(6)【参考論調:ジョースト・ラゲンドウジク氏:なぜ病気の将軍を訪問したか】

9日、エルドアン首相が不倶戴天の敵の一人である入院中のエルギン・サイグン退役将軍を見舞った理由は、軍部が(現在進行中の)クルド問題和平プロセスを妨害することを阻止するため。(2月13日付TZ紙6面)

### ●シリア向け大量の小火器を押収

1月末、治安当局は次のシリア向け小火器多数を隠匿場所から押収。

- ・空気銃110丁
- ・散弾銃51丁
- ・狙撃銃スコープ86式
- ・狙撃銃の一部86式
- ・けん銃の一部104式
- ・弾薬5万375個(2月14日付HD紙1面)

### ●トルコ海軍のアデン湾海賊対策、1年延長

7日、海軍が実施中のアデン湾における海賊対策は、閣議

決定により1年間延長された。(2月8日付AA)

●**軍人・警察官の銃携帯制限**

4,000名以上の軍人・警察官が、3月から発効した家庭内暴力に関する法令により、銃携帯の権利を剥奪された。(2月9日付HD紙4面)

●**ボスポラス海峡で船舶衝突事故**

8日、19時25分頃、ボスポラス海峡において、アジア側から出港したフェリー「イエニカプー1」と貨物船(乾燥食料運搬)「AMUR2521」が衝突し、フェリー側船尾が部分的に損壊。乗員1名と乗客8名が負傷。事故当時、フェリーには乗客33名が乗船中だった。(2月9日付HDインターネット版)

●**中央アジア諸国との情報共有**

政府関係者によると、トルコ、アゼルバイジャン、キルギス、モンゴルは、警備情報等の共有を目的とし、「TAKM:ユーラシア軍事関係法令執行官組織」を設立。フランス、イタリア、スペイン、ポルトガルが既に設立している同趣旨の組織「FIEP」を模している。(2月12日付Z紙インターネット版)

●**ネジデット・オゼル総参謀長がUAEへ表敬訪問**

ネジデット・オゼル総参謀長がUAEを表敬訪問し、両国間での軍事協力及び関係強化につき意見交換。(2月13日付AA)

●**「1997年2月28日事件」で新たに4名が逮捕**

1997年2月28日当時の政府に対し、方針の変更を強制した、武器を用いない軍介入事件に関連し、13日、新たに将軍5名がアンカラの裁判所に招集され、4名がそのまま逮捕、1名が釈放された。(2月14日付H紙1及び22面)

【参考:1997年2月28日事件】

【2月28日事件の経緯】	
1995年	国会議員総選挙によりRP (AKPの前身の一部) が与党第1党に。
1996年	選挙結果にもかかわらず、大統領の命によりDYP (右翼政党)、ANAPの連立政権樹立。RPはこれを不服として憲法裁判所に提訴。RPの主張が認められ、1996年7月8日RP、DYPの連立政権樹立
1996年 9月2~7日	RPのエルバカン首相が最初の外遊として、エジプト、リビア、ナイジェリアを訪問。リビアにてカダフィ大佐から、「トルコの将来はNATOと共にはない、クルド人を攻撃するのは奇妙である、イスラエルと親密にするのはおかしい」旨の発言に反論しなかったことから、トルコ国内メディアから強烈的な批判をあげる。
10月3日	トルコ東部スルックにて1台のメルセデスが通常の交通事故を起こし、3名死亡。同3名は、マフィア幹部、政治家、警察幹部であったが、首相がこの報道を否定。後に正しい報道であったことやマフィアと政治家の関係が暴かれる報道もあり、首相に再度批判が集中。
11月10日	カイセリ市のアタテュルク追悼式典で、カイセリ市長 (RP) がアタテュルクを非難し、イスラム教軍報、政教分離不用を発言。不敬罪により懲役1年、42万トルコリラの罰金が科される。
1997年 1月11日	エルバカン首相、首相公邸にて、トルコ全土のイスラム教リーダーと公式の断食明けの食事会を開催。
1月22日	イズミット県ギュルジュック地区にある海軍基地にてトルコがイスラム国家になってしまう懸念から会議を開催。
1月30日	アンカラ県シンジャン市にて同市市長がイラン大使を招待し、聖職を題材とした演劇を鑑賞。
2月4日	同シンジャン市にて、軍が政府の決定なしに、20台の戦車と15台の装甲車で街頭を徘徊。
2月5日	大統領 (DYP) がエルバカン首相へ国民の不満が高まっている点について留意するよう要請。また、海軍司令官がトルコがイスラム教国家になることは、PKKの存在よりも危険であると発言。
2月11日	アンカラにて女性中心のイスラム教国家に向かう政治に対してデモ行動。
2月28日	軍の最高国防会議が9時間にわたり国防省内で開催。会議後以下の方針変更を政府へ伝達。①全ての宗教学校を統制下におき、管理すべき。②5年間の義務教育を9年間に延長。③全ての宗教コミュニティの活動停止、解散。④軍が反イスラム教に報道するメディアに対し、同報道の停止
3月4日	首相は、上記4点の方針変更を約束した書面に署名を求められるも拒否。
3月13日	国民の強い非難と軍の圧力により、結果として上記書面に首相は署名。
5月21日	検察が高等裁判所に対し、RPは憲法に違反しているとして提訴。
6月7日	トルコ軍参謀本部はトルコのイスラム系企業からの不買運動を展開。
6月10日	トルコ軍幹部が憲法裁判所裁判官と高等裁判所裁判官を国防省に呼び会合。
6月18日	エルバカン首相、国民の批判を考慮し、自ら辞任。

3. 経済

●**キプロスの石油・天然ガス鉱区開発権付与に対する対抗措置**

キプロス共和国は、キプロス島周辺海域における石油・天然ガス鉱区の開発権付与に関する入札を実施。この入札に応じた企業に対し、トルコ外務省は抗議文書を送付。この抗議文書では、キプロス共和国と協力を行う企業について、トルコにおける新規エネルギープロジェクトへの参加にあたっては深刻な影響を与えようとの警告がなされている。(2月13日付H紙9面)

●**昨年行われた企業買収・合併・民営化の総数は345件**

2012年に行われた企業買収・合併および民営化の総件数は345件、取引総額は330億ドルに上った。企業関係者によると、トルコ企業の価格は欧州企業に比較し高めである由であるが、それでも2013年には民営化だけで100億ドルの収益が期待されている。(2月13日付H紙15面)

●**65歳以上の高齢者の公共交通機関利用費が無料に**

12日、エルドアン首相は、65歳以上の高齢者が、国鉄(都市内移動のみ)、船舶(都市内移動のみ)、地方自治体による都市内部の公共交通機関の利用費を無料とすると述べた。(具体的な実施時期等についての情報は無い。)(2月13日付M紙12面)

●**イスタンブール第三国際空港の入札基本仕様書を16社が購入**

5月3日に実施が予定されている第三空港の入札用基本仕様書が一冊10万リラで販売され、16社が購入。第三空港建設については、すでにサバンジュ・ホールディング、TAV、アラルコ・ホールディング、ヴァルヤブ、リマク、ドウシュ・ホールディングが関心を表明(応札の事実は不明)。(2月13日付TD紙11面)

●**経常収支赤字が縮小**

2012年の経常赤字は489億ドルと、2011年経常赤字額771億ドルより大幅に縮小。シムシェキ財務大臣は、中央銀行、銀行監督庁(BDDK)、財務省のとってきた一連の引締策が効を奏したと述べた。(2月14日付HT紙8面)

●**米国・EU間FTA交渉に対するトルコの対応【参考論調:セチキン・ウレイ氏】**

米国・EU間でのFTA交渉が6月にも開始される見込みであるが、EUと関税同盟でしか結ばれていないトルコは、米国・EU間FTA交渉が妥結しても、米国市場への自由参入は当然には認められない。米国・EU間FTA発効により、米国のGDPは0.5%、EUのGDPも0.4%増加すると予想されるのだが、トルコがFTAから除外されていることの損失は大きい。かつてトルコは、米国・EU間FTA交渉に同席することを求めたがEUに断られた経緯がある。トルコは、同時並行的に米国とFTA交渉を開始する必要がある。(2月14日付HT紙11面)

●**三井住友銀行がガランティ銀行と業務提携へ**

三井住友銀行は、トルコ銀行大手のガランティ銀行と業務協力協定に署名。輸出信用機関の保証・保険付案件(ECAファイナンス)やストラクチャード・ファイナンス、トルコでの日系企業向け金融サービスでの協力を行う。(2月14日付TD紙11面)

●**青年社長会(YPO)、イスタンブールで開催**

世界で120カ国以上の国で会員12万人を有し、年間合計収入が6兆ドルに達する企業幹部たちからなる青年社長会(YPO, Young Presidents Organization)が、2月28日から3月1日の期間、イスタンブールで開催予定。YPO加盟

※掲載内容は、トルコの新聞報道をまとめたものです。

企業は今日 1500 万人の雇用創出をしており、企業幹部には、コココーラ社ムフタル・ケント社長、シルクドソレイユのガイ・ラリベルテ創設者、フィアット社セルジオ・マテオーネ社長らも出席。(2月7日付 HT 紙インターネット版)

#### ●トルコの2012年輸入額発表

チャーラヤン経済大臣は、2012年の輸入額とともに、国内の輸入構造を3つに分類し、(i)国内で全く生産されていない、あるいは僅少生産のもの、(ii)国内生産されているが、需要を満たすことが出来ていないもの、そして(iii)国内生産が十分なされているが、輸入されているもの(繊維、繊維機械、靴、バッグ、家具、陶器、白物家電)と説明した。

#### 【トルコの輸入額内訳(2012年)】

順位	輸入額 (ドル)	内容
合計	2365億	
1	601億	Mineral fuels, minerals oils and product of their distillation
2	263億	Boilers, machinery and mechanical appliances
3	196億	Iron and steel
4	163億	Electrical machinery and equipment: parts thereof
5	145億	Vehicle other than railway or tramway rolling stock
6	125億	Plastic and articles
7	85億	Precious stones, precious metals: and articles
8	51億	Organic chemicals
9	41億	Optical, photographic, cinematographic, measuring checking
10	40億	Pharmaceutical products

#### ●中国、オリーブ油需要増加中

国際オリーブ評議会(IOC)によると、中国のオリーブ油輸入は過去5年で6倍に増加しており、内、2%はトルコ製。中国のオリーブ油輸入は、スペイン製60%、イタリア製24%、ギリシャ製6%、トルコ製2%。輸入量は、2010~2011年に354トンだったものが、2011~2012年には833トン。(2月8日付H紙11面)

#### ●トルコ航空の市場価値は世界15位

(2月8日付HT紙9面)

#### 【航空会社の市場価値】

順位	航空会社	市場価値 (10億ドル)
1	Delta	12.3
2	Air China	12.2
3	LATAM	11.8
4	Singapore Airlines	11.0
5	Ryanair	10.9
6	Lufthansa	9.1
7	Southwest	8.4
8	US Airways	8.4
9	JAL - Japan Airlines	7.8
15	THY	4.6

#### 【乗客数】

順位	航空会社	乗客数 (100万)
1	Delta Air Lines (USA)	114
2	Southwest Airlines (USA)	111
3	American Airlines (USA)	86
4	China Southern Airlines (China)	81
5	Ryanair (Ireland)	76
6	Lufthansa (Germany)	63
7	China Eastern Airlines (China)	54
8	US Airways (USA)	53
9	United Airlines (USA)	50
10	Air France (France)	50
11	THY (Turkey)	39

#### ●トルコ、IMFへの融資国へ転換

エルドアン首相は、(i)トルコは10年前には235億ドルの負債があったが、今やIMFへ5億ドルの融資が可能な国になったとし、(ii)トルコ人ビジネスマンは現在EUに代わってアフリカやラテンアメリカを対象に貿易を始め、アフリカ諸国への輸出額は2002年以降、30億ドルから200億ドルに増加したと述べた。(2月8日付HDN紙11面)

#### ●トルコ、送金受け入れ国から送金国に

世界最大の送金グループである、ヒクメット・エルセック・ウェスタン・ユニオン社社長(トルコ国籍)によると、トルコはかつてドイツ在住トルコ人労働者たちが送金する宛先国であったが、今や、欧州経済危機に直面して困窮している国外在住の親戚たちに送金する国となった。同社では、数年前はトルコ全体の取り扱い送金業務の90%がトルコ宛の送金であったが、2012年はトルコからドイツへの送金作業が30%増加した。(2月10日付H紙インターネット版)

#### ●トルコの飢餓・貧困ライン

(2月8日付C紙11面)

貧困ライン (1人当たり)	1.763,58TL ( <b>\$1,007</b> )
飢餓ライン (1人当たり)	1.361,85TL ( <b>\$777</b> )
最低生活費ライン (4人家族)	3.525,42TL ( <b>\$2,014</b> )
平均食費(4人家族/月)	799,11TL ( <b>\$456</b> )
平均家賃(4人家族/月)	548,00TL ( <b>\$313</b> )
公務員平均給与(月)	1.924,51 TL ( <b>\$1,099</b> )
公務員家族(4人/月)の 平均食費	798,00TL (収入の41%)

#### ●トファッシュ社、新型車2モデルを7月に発表

バシャラン・トファッシュ社 CEO は、同社として2つの新型車モデル(セダン型とトラック)を7月に発表すると述べた。また同氏は、2015年にこうしたモデルを市場に出す計画であるが、具体的な車種名は明らかにしなかったことから、関係者の間では純粋な国産車となる可能性もあるとの期待感が生まれている。(2月11日付HT紙8面)

#### ●トルコ航空、国内線機内の酒類サービス廃止

H紙記事によると、トルコ航空は、国内線機内ビジネスクラスにおけるアルコール需要を調査した結果この需要が減少したことが判明したとして、6路線(イスタンブール、イズミル、ボドルム、ダラマン、アンタルヤ、アンカラ)を除く、国内線機内ビジネスクラスのアルコール・サービスを廃止。トルコ航空は、既にアラブ諸国やイラン路線ではアルコール・サービスは行っていない。(2月12日付R紙インターネット版)

#### ●トルコ企業、石炭による地熱発電所建設

黒海地方アマスラ市にある石炭掘削権を有するハタット・ホールディングは、石炭による地熱発電所(1320MW)建設を計画。この計画は中国と韓国の企業と話を進めており、合計35億ユーロの投資が予定される。イベック・ハタット同社役員は、企業名を明かさずに、(i)同社が中国企業とより頻りに交渉を行っている一方で、韓国企業は大企業の一つであり、契約締結を強く望んでいる、(ii)6月までには契約の予定と述べた。昨年4月にハタット社は、中国Avic国際ホールディングとエンジニア協力に合意し、北部トルコにおける地熱発電所(1320MW)を建設する。同建設費用は15億ドル。(2月12日付HDN紙10面)

●サバンジュ財閥会長、和平となればトルコ経済は急成長  
ギュレル・サバンジュ・サバンジュ財閥会長は、(i)クルド問題、和平・兄弟プロセスに希望を持っており、多大な支援が必要である、(ii)トルコには新憲法が必要、(iii)和平プロセスが実現されれば、トルコ経済は飛躍的に成長すると信じている、と発言。(2月12日付HT紙10面)

#### ●トルコで二番目に大きい造船基地、閉鎖へ

トウズラに次いでトルコで二番目に大きい、黒海のエレリ造船基地は閉鎖状態にある。その理由として、世界的経済危機による海運業への影響、海運輸送コストの減少、造船所における死亡事故発生を受けて外国人造船主の不信が高まったこと、未払いに対する銀行融資停止等があげられる。2008年に造船所労働者は1万1000人だったが、

現在は150人となっていた。(2月12日付H紙9面)

#### ●トルコ、金の貯蔵量で世界17位に

経済危機が続く中、発展中の新興経済国は金の貯蔵を増加させており、その中には中国、ロシア、トルコの名前がある。(2月12日付M紙7面)

#### 【金の貯蔵量】



#### 4. 治安

##### ●アル・カーイダのメンバー釈放

7日、治安当局が昨年の家宅捜索において、米国大使館、パキスタン大使館、フランス教会、国会建物他の写真と爆発物原料が押収された事件に関し、アル・カーイダのメンバーとの容疑で身柄を拘束された16名のうち、最後の1名が証拠不十分で釈放。(2月8日付AA)

##### ●ウサマ・ビン・ラーディンの娘婿、トルコに留まることを希望

治安当局は、偽造パスポートを用いて不法入国し、アンカラにおいて身柄を拘束されたウサマ・ビン・ラーディンの娘婿(レイマン・アブ・ガーイド)が、「もしトルコ政府が許可するのであれば、ムスリムの国であるトルコで暮らしたい」と申し出ている事実を発表。(クウェート国籍が剥奪されていたことから、スーダン、ソマリアあるいはヨルダンへの強制送還が検討されていた)(2月8日付AA)

##### ●DHKP/C、HP上において自爆テロ被害者へ謝罪

革命人民解放党/戦線(DHKP/C)は、HP上において、米国大使館への自爆攻撃により重傷を負った女性テレビ記者に対し謝罪を表明。一方で、同攻撃で死亡したトルコ人警備員に対しては、「米国に20年も仕えていた者は人民の敵である」として謝罪の言葉はなかった。(2月8日付AFP)

##### ●イスタンブールにおいて、昨年の喫煙違反の罰金徴収額は9,500万トルコリラ

イスタンブール保健局は、2012年中に喫煙違反で徴収した罰金が約9,500万トルコリラであったと発表。法人から徴収した罰金額は、4,134社から898万9,372トルコリラ、個人からは、6,641名から50万2,899トルコリラ。(2月7日付TZ紙インターネット版)

### ●ギリシャ政府とDHKP/C対策で会合

3月2日、アンカラにおいて、トルコ政府はギリシャ政府とDHKP/C対策でハイレベルの会合を開催予定。席上では、エルドアン首相からDHKP/Cについて説明が行われる予定。(2月8日付A紙15面)

### ●ベイオール市において、火炎瓶攻撃事件発生

10日、ベイオール市ウルマック区オヤ通りにおいて、数人が同所に駐車中の車両に対し火炎瓶を投てき。負傷者はなかった。(2月11日付AA)

### ●テロ容疑者引き渡しに関し、ドイツ内務大臣を批判

7日、内務大臣は、アンカラを往訪したドイツ内務大臣に対し、在アンカラ米国大使館前で発生した自爆テロ事件容疑者を1年前に引き渡し要請をしていたにも関わらず、ドイツ側から引き渡しをなされなかったことに不満を表明。これに対し、ドイツ内務大臣は、「この件は法務省の所管であるが、もし引き渡しを要請するのであれば更に具体的な証拠を示す必要がある」と発言。なお、テロ対策では、両国が共同でその資金源を断つことで意見が一致。(2月8日付TZ紙インターネット版)

### ●エーゲ海で地震発生

10日20時10分頃、エーゲ海(ボズジャアダ)において、マグニチュード4.1の地震が発生。被害報告はなかった。(2月10日付AA)

### ●ヴァンで地震発生

12日19時頃、ヴァンにおいて、マグニチュード4.3の地震が発生。一時住民が騒然とした。(2月12日付AA)

### ●エディルネ県とムーラ県で密入国者の身柄を拘束

#### (1)エディルネ県

軍警察は、密入国者10名(国籍はエジプト、シリア、パレスチナ、イラクとミャンマー)(2月8日付AA)に続いて、17名(国籍はパレスチナ、ミャンマー、マリとエリトリア)の身柄を拘束。(2月13日付AA)

#### (2)ムーラ県

軍警察は、密入国者38名(国籍は、パレスチナとイラン)の身柄を拘束。密入国者達は、イズミル県から船でギリシャへ移動していた。(2月13日付AA)

### ●ゼイティンブルヌ市で爆弾騒ぎ

9日、ゼイティンブルヌ市のムアムメル・アクソイ通りにおいて、不審な買い物カバンが置かれているのを通行人が発見し、警察に通報。県警爆弾処理隊が爆破処理をした結果、カバンの内容物はガラス製品。(2月9日付AA)

### ●デモ参加中のクルド系19歳少年、所持していた爆発物により爆死

10日、ディヤルバクル県において、クルド系住民が、治安当局に対し約100名規模のデモを開催中に(1999年2月15日にPKK首領オジャランの身柄が拘束されたことに対する抗議)、デモに参加中の19歳の少年が、所持していた爆発物の爆発により死亡。(2月11日付AFP)

### ●シリア国境の検問所において車両爆発

11日、シリア国境のジルヴェギョス検問所(シリア領域内の国境緩衝エリア)の駐車場内において、停車中のシリアナンバーの車両が爆発、少なくともトルコ人3名を含む13名が死亡、28名が負傷。(2月11日付AFP)

### ●スペイン、フランス及びドイツ、PKKの取締を実施

スペイン治安当局は、「カッパドキア」と名付けた取締を実施し、主にPKKの資金対策を担当していたメンバー6名の身柄を拘束。フランス治安当局も、主に資金対策を担当していた17名の身柄を拘束。ドイツ検察庁は、当地で資

金担当の46歳の男(アブドゥラ・S。別名ハムザ。2012年4月27日ドイツ当局に身柄拘束)を起訴。(2月12日付AA、AFP)

### ●トゥズラ市、シリア難民への援助物資をガズリアンテプ県へ搬送予定

トゥズラ市は、同市民から寄付されたトラック2台分の支援物資をガズリアンテプ県に搬送予定。(2月12日付AA、AFP)

## 5. 社会

### ●行方不明の外国人数は89名

米国国籍者がトルコで行方不明になり、その後遺体で見つかった事件を受け、行方不明の外国人数に再び注目が集まっており、その数は89名に上っている。これは治安当局の行方不明者捜索課に顔写真付で登録された数。行方不明者の地域別最多数は、イスタンブールで22名、コンヤで12名、サムソンで10名、シヴァスで5名となっている。(2月7日付HT紙23面)

国名	行方不明者数	国名	行方不明者数
ソマリア人	26	日本人	1
アフガニスタン人	15	ポーランド人	1
アゼルバイジャン人	8	インド人	1
イラン人	5	パレスチナ人	1
ブルジョア	4	カメルーン人	1
トルクメニスタン人	3	キルギス人	1
フィリピン人	2	ナイジェリア人	1
ウズベキスタン人	2	チェコ人	1
ロシア人	2	クウェート人	1
ルーマニア人	2	タジキスタン人	1
シリア人	2	マケドニア人	1
イギリス人	1	ブルガリア人	1
ドイツ人	1	ウクライナ人	1
イタリア人	1	パキスタン人	1
ギリシャ人	1	合計	89

### ●アヤソフィア大聖堂入口で見つかった300年前の噴水

大イスタンブール市の決定により進められていた、イスタンブール中心部のヒポドローム、スルタンアフメット・モスク、アヤソフィア博物館の広場公園整備作業により、地下に埋まっていた古代噴水が発見された。また、アヤソフィア大聖堂は築1500年、付近のスルタンアフメット・モスクは築400年経っており、2つの建物の間には高低差が生じている模様アヤソフィア大聖堂周辺が地盤沈下しているため。(2月8日付TZ紙3面)

### ●金角湾のメトロ用鉄橋が2014年には開通の予定

スレイマーニエ・モスクを望む景色を遮るものとして批判されていた金角湾にかかる鉄道橋工事が順調に進んでいる。金角湾に海底に敷設された基礎部上の橋のパーツが接続され始めた。(2月8日付HT紙24面)



### ●THYの新しい制服デザインが酷評

トルコ航空(THY)の新しい制服デザインがファッションデザイナーと一般市民の双方から、あまりに保守的、アラブ的だと酷評されている。THY側は、複数のデザインを検

討しており、現時点では決定されたものではないとしている。



●9ヶ月で125人の女性が家庭内暴力の犠牲者

シャーヒン家族社会政策大臣は、2012年1月から9月までの9ヶ月間で女性125人が家庭内暴力で死亡したと発表し、「死亡した女性は男性の暴力のみならず、家族の暴力で亡くなった女性数である。」と述べた。少なくとも1回以上の身体的・性的暴力を受けたことのある女性の中で、教育を受けていない女性数は全体の55.7%、高等教育以上の教育を受けている女性数は27%。(2月11日付H紙3面)

●レバノンでトルコ語小説が流行

レバノンのアラブ学術出版社は、一部のトルコ出版物をアラビア語に翻訳開始し、オスマン帝国に関する歴史書、トルコ文学作品や小説を主に、アラビア語版として出版していると述べた。(2月12日付DN紙8面)

●昔の様子は陰も無し

昨年11月4日に開始した工事によりタクシム広場では現在も車両通行止めが継続。歩行者天国となる予定の広場の下を車両が通行できるようにする工事であり、広場は広範囲にわたって掘り下げられている。現在歩行者用に広場に架けられた橋について、関係者は「危険なはい」としているが、いくつかの脚だけで支えられているだけのため、安全性を巡り議論的になっている。(2月12日付HT紙26面)

●ノスタルジックなトラム、99歳を迎える

1914年2月11日に開通した電気トラム(トランバイ)が99年目を迎え、これを記念してIETT(イスタンブール・トランバイ交通機関)は長い間、愛され利用されているトランバイについて、電力駆動の生きた「お手本」だとした。また、トルコ国内外の観光客の人気者のノスタルジックなトランバイは、子供からお年寄りまで幅広い年齢層の人々に愛されている交通手段、我々にとってトランバイは単なる交通手段を超えたシンボル、どの車両も100歳であるトランバイを末永く生かすために、整備は慎重に行われているとした。(2月12日付HT紙26面)

●明日はバレンタイン、1週間で300万本のバラ販売

行動科学・コミュニケーション専門家アシュクム・カプシユマック氏が行った「コミュニケーション、愛と結婚」についての調査(既婚者900人、独身者100人対象)、によ

ると、女性は男性の「成功」を、男性は女性の「若さと美貌」を重視していることが明らかになった。同氏の行った調査結果では、女性は結婚するに当たり、将来自分と子供たちを養う力がある男性を求め、忍耐強く働き者であると同時に、ステータスと野心を重視していることが判明。(2月13日HT紙6面)

恋に落ちる理由		
男性が恋に落ちる理由	美貌と魅力	45%
	接点が多い	25%
	人が良く自分に優しい	15%
	個性的で真面目	15%
女性が恋に落ちる理由	人柄に影響された	25%
	正直で自信にあふれ、セクシー	35%
	ユーモアに溢れ、側にいて安心	10%
	気配りがあり、情け深く、働き者	30%
男性の交際視点	短期間の関係を求める	40%
	長期の関係・父親になる願望	60%
女性の交際視点	短期間の関係を求める	30%
	長期の関係・家庭を築く願望	70%

●ボスフォラス海峡のケーブルカー

トプバシュ大イスタンブール市長は、イスタンブールのボスフォラス海峡をケーブルカーで繋ぐと約束し、アジア側のサンジャックテベからウスキュダルへ地下鉄が繋がり、そのままボスフォラス海峡を横断するケーブルカーに乗ってヨーロッパ側のメジディエキョイへ行くことは夢ではないと述べた。(2月14日DN紙1面)

注：本文中の略語の正式名称は以下の通りです。

略語	正式名称	略語	正式名称
AKP	公正発展党	DTK	民主主義社会評議会
CHP	共和人民党	TYK	トルコ高等教育評議会
MHP	民族主義者行動党	TÜBİTAK	トルコ科学技術研究機構
DEP	民主党	BSEC	黒海経済協力機構
DYP	正道党	RTÜK	ラジオ・テレビ高等機構
RP	福祉党	EDAM	経済外交政策センター
BDP	平和と民主主義党	DHMI	国家航空局
DTP	民主社会党	TAI(TUSAŞ)	トルコ航空・宇宙産業会社
PKK	クルディスタン労働党	TEI	TUSAŞ 航空機エンジン産業会社
KCK	クルディスタン共同体同盟	TOKI	トルコ集合住宅開発局
ÖSB	PKKの防衛隊	TCDD	トルコ国鉄
DHKP/C	革命人民解放党/戦線	İDO	イスタンブール海上フェリー会社
TİKKO	トルコ労働者・農民解放軍	TBB	トルコ銀行協会
KPG	北イラク政府	TÜYİD	トルコ投資家関係協会
PYD	シリア民主主義連合党	TÜSİAD	トルコ産業・実業家協会
SNC	シリア国民評議会	TESK	トルコ商工業連合
AFAD	トルコ首相府緊急災害事態対応庁	İTO	イスタンブール商工会議所
EPDK	エネルギー市場監督庁	İSO	イスタンブール産業会議所
SSM	防衛産業庁	TÜPRAS	トルコ石油精製会社
BDDK	銀行監督庁	TPAO	トルコ石油公団
TÜİK	トルコ統計庁	İKSV	イスタンブール文化芸術財団
SPK	証券取引監査院	İHH	人権・自由・人道的援助基金
MİT	国家諜報機関		

注：本文中のニュースソースの略称は以下の通りです。

トルコ語新聞		英字新聞		通信社	
Cumhuriyet	C	Herald Tribune	IHE	Anadolu News Agency	AA
Hürriyet	H	The Daily News	DN	Agence France Presse	AFP
Vatan	V	Economist	EC	Cihan News Agency	CA
Akşam	A	Today's Zaman	TZ	Doğan News Agency	DA
Milliyet	M	Hürriyet Daily News	HDN	Ihlas News Agency	IA
Sabah	S				
Radikal	R				
Zaman	Z				
Posta	P				
Haberturk	HT				
Taraf	T				

在イスタンブール日本国総領事館

電話：212-317-4600

FAX：212-317-4604

E-Mail: [istanbulweekly@it.mofa.go.jp](mailto:istanbulweekly@it.mofa.go.jp)

WEB: [http://www.istanbul.tr.emb-japan.go.jp/index\\_j.html](http://www.istanbul.tr.emb-japan.go.jp/index_j.html)

Facebook: <http://www.facebook.com/Japonya.Istanbul.Baskonsooloslugu>

●文化行事のご案内：

(1) 箏・カーヌーン コンサート

トルコ在住の箏奏者の末富敦子氏と、カーヌーン奏者のハリル・アルチュンキョプル氏の共演によるコンサートを下記の通り開催いたします。日本とトルコの伝統弦楽器である箏とカーヌーンのコラボレーションにより、美しいハーモニーが紡ぎだされます。

日時：2月22日（金） 13:00～14:00

場所：旧在イスタンブール日本国総領事館（旧総領事館）(İnönü Cad. No.16, Gümüşsuyu, Taksim, İstanbul)

演奏曲目：さくら変奏曲、荒城の月、ニクリズ・ベスレヴ（オスマントルコ時代の曲）、ウスキュダル等

（曲目は当日変更となる場合があります）

(2) Kingdom of Character 「キャラクター大国、日本」展

日本とキャラクターをテーマに、これまでに日本社会でブームを巻き起こしてきた国民的キャラクターを画像やパネルで紹介した展覧会を下記の通り開催中です。

日時：1月30日（水）～2月20日（水）の期間中、11:00～18:00

場所：旧在イスタンブール日本国総領事館（旧総領事館）(İnönü Cad. No.16, Gümüşsuyu, Taksim, İstanbul)

内容：日本のキャラクター文化をパネル、フィギュア、映像などを用いて4部構成で紹介

第1部：各年代を代表するキャラクターのパネル・フィギュア展示・映像上映

（ウルトラマン・ガンダム・エヴァンゲリオン等）

第2部：キティの部屋再現

第3部：地方自治体発キャラクター（ひこにゃん、せんとくん等）、パネル展示、アニメ上映

第4部：日本人とキャラクターの係わり合いについてのパネル展示

※ 学校等団体の見学も受け付けますので、事前にお気軽にご相談ください。



●トルコに90日以上滞在される方は総領事館に在留届を提出願います。

●新規で配信をご希望の方、配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

[istanbulweekly@it.mofa.go.jp](mailto:istanbulweekly@it.mofa.go.jp)